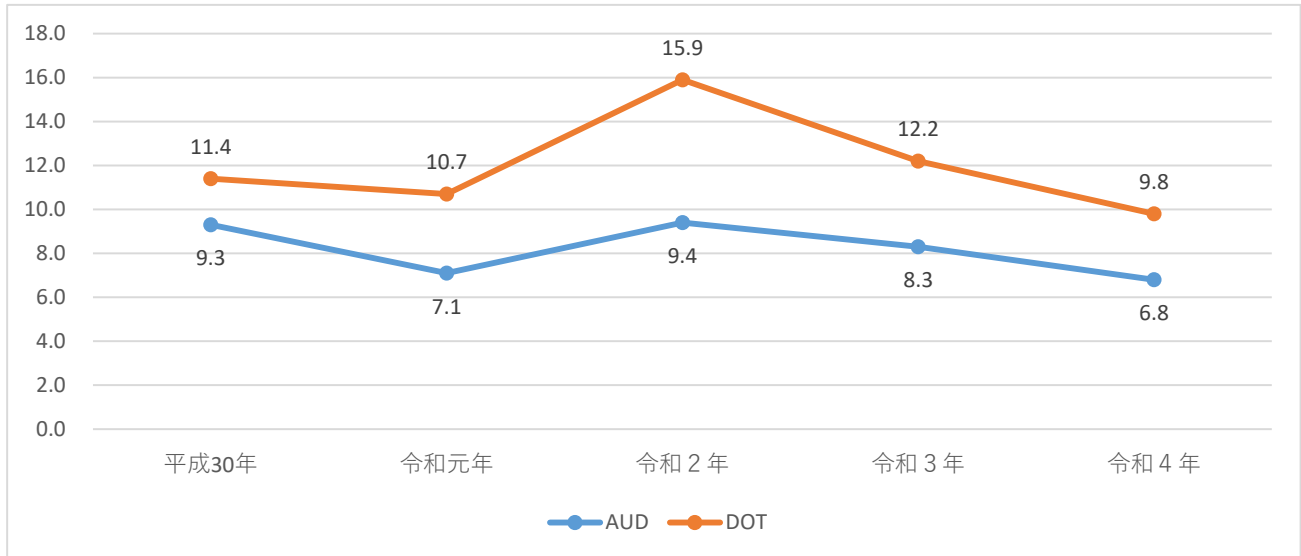


11 カルバペネム系抗菌薬使用密度（AUD：Antimicrobial use density）

各月平均値

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
AUD	9.3	7.1	9.4	8.3	6.8
DOT	11.4	10.7	15.9	12.2	9.8



特定の抗菌薬に使用が偏ると、その薬剤への耐性が獲得されやすくなる（＝耐性菌が出現しやすくなる）。特に、広域抗菌薬（多くの細菌に効果がある薬剤）の不適切な使用は、薬剤耐性菌の出現、感染症治療の失敗を招くため、当院ではこれら広域抗菌薬の使用密度（AUD）と使用日数（DOT）を毎月算出し、確認。

○AUD（Antimicrobial use density）抗菌薬の使用状況に関する指標

重症患者の多寡によっても適正值は変動。したがって、具体的な目標値を設定する性質のものではなく、時系列で極端な上昇がみられないかを確認するための指標として使用。

※AUD算出方法： $[\text{【カルバペネム系の抗菌薬使用量（g）】} \div \text{【カルバペネム系抗菌薬のDDO（difend daily dose：それぞれの抗菌薬にWHOが設定した1日投与量）} \times \text{入院患者延べ日数}]] \times 1,000$

※カルバペネム系抗菌薬：チエナム、メロペネム、フィニバックス

※チエナム、メロペネム、フィニバックスのそれぞれ毎にAUDを算出、合計したものを各月の値とし、年ごとに平均値を算出。

○DOT（Days of therapy）抗菌薬使用日数に関する指標

抗菌薬の用法・容量に関わらず、患者に投与された日数を集計したもの。

※DOT算出方法： $[\text{【カルバペネム系の抗菌薬使用延数（日）】} \div \text{【入院患者延べ日数}]] \times 1,000$

※チエナム、メロペネム、フィニバックスのそれぞれ毎にDOTを算出、合計したものを各月の値とし、年ごとに平均値を算出。

○AUD／DOT比を用いた抗菌薬使用状況の指標

AUD／DOT比：広域抗菌薬の使用量、使用日数、使用入数の3要素を合わせて評価できる。

※チエナム、メロペネム、フィニバックスのそれぞれ毎にAUDをDOTで除したもの。